

# 板橋石調査ノート

坂本 明 (宇都宮市文化財ボランティア協議会)

## 1. はじめに

徳次郎石研究会では、徳次郎石と他の凝灰岩産出地とを比較研究する目的で、宇都宮市内だけではなく県内各地の凝灰岩採掘場の調査を実施し、昨年度は那須烏山市の中山石を調査しました。そして、今年度は昨年度の「板橋石」予備調査を踏まえ、2022年6月26日に『板橋石合同調査会』として、郷土史研究家の田邊博彬氏と地元の高山豊明氏のお二人の案内で、国立研究開発法人産業技術総合研究所の吉川敏之氏、日光市歴史民俗資料館学芸員の斎藤康則氏、徳次郎石研究会からは中村洋一氏、相田吉昭氏、中川博夫氏、池田貞夫氏（昨年度）、坂本明が参加し「板橋石」の採掘場跡の現地調査をいたしました。また、「板橋石」に関連する、張り石の蔵や「餅つき臼」の調査もいたしましたので、それらも含めて板橋石の概要として報告します。

## 2. 板橋石とは

私が初めて「板橋石」の存在を知ったのは『民藝』第630号（平成17年・2005）です。その中で、大谷石の産地の一つとして民藝運動の中心人物であった柳宗悦が「板橋石」についてこう述べています。「(前略) また寺沢石に似ているもので板橋石がある。上都賀郡落合村板橋から出る。質は大谷石より硬い。この石は今では殆ど採掘していないと云う。」この文章は柳宗悦が『工藝』第65号（昭和11年・1936）に書いたものです。「板橋石」の存在は、今から86年前には栃木県外にも知られていたのです。

その他としては、「板橋石」について『栃木県歴史の道調査報告書第1集』（平成20年・2008・栃木県教育委員会事務局文化財課）の「沿道の民俗」でこう説明しています。「板橋石は、宇都宮市大谷周辺で産する大谷石と同様緑色凝灰岩であるが、大谷石に比べきめが細かく、色も白く、一目で板橋石と判別できるものである。主たる採石の年代は、おおよそ江戸時代中期頃から明治時代中頃と推定される。それは、板橋石の使用が圧倒的に貼り石として使用されたことからいえるもので、運搬方法と関連した。」とあります。

では「板橋石」の建造物はどこにあるのでしょうか。調べてみると、宇都宮では田野町の「小野口家住宅」（国登録文化財）の長屋門（明治9年・1876）に「板橋石」が使われています。その他の建造物としては、日光市今市にある歴史民俗資料館・二宮尊徳記念館に、かつてこの敷地内にあった「報徳役所書蔵」（日光市指定文化財）という張り石の蔵が移築されています。

## 3. 「板橋石」の地理的位置

江戸時代、近くには日光例幣使街道の板橋宿があり、採掘場跡は中世の山城のあった通称城山の南東斜面に位置します。その街道が城山の西側を通っていたことから、切り出した石の運搬等、流通が容易であったことが推測できます。

ほかの採掘場との位置関係では、宇都宮市大谷からだと城山西を經由する県道70号線で約15km、鹿沼からだと日光例幣使街道を通るルートで約13km、宇都宮市徳次郎からだと日光街道と県道149号線を通るルートで約15km、江戸時代の間道でも徒歩で楽に行き来できる距離でした。

そして大谷や徳次郎や鹿沼とともに板橋も共通することですが、いずれも日光に近いことです。現在世界遺産



小野口家住宅 長屋門 張り石



日光市歴史民俗資料館 書蔵 張り石

になっている東照宮の木造建造物を支えているのが、全国から集まってきた石工たちが日光の安山岩で造った、基礎や擁壁、水路、神橋の橋脚などです。寛永13年（1636）徳川家康の墓所である東照宮の大規模な改築が行われましたが、工事が終了した後も石工たちの一部が、日光近辺に居残ったことが考えられます。そのことは、日光市の町名に「石屋町」があることから推察できます。その石工たちの技術が、安山岩よりも柔らかい日光近郷の凝灰岩の採掘や加工に応用された可能性は十分に考えられます。

#### 4. 石臼との出会い 2020年10月

偶然にも友人に誘われ下板橋に住む船生氏宅を訪れました。目的は別にはありましたが、「板橋石」に興味がありましたのでいろいろ質問すると「板橋石」でできた石臼があり、毎年正月の餅を搗くというのです。城山の南西のふもとに石屋があり、船生氏が子供の頃に石臼を作ってもらったそうです。「板橋石」の石臼で餅を搗けるのかと聞くと、餅に石屑が混ざりジャリジャリすることは無いそうで、「板橋石」でできた「餅つき臼」という意外な出会いにびっくりしました。



納屋で横にして保管されていた石臼

#### 5. 1回目の採石場現地調査 2021年9月21日

「板橋石」については、あまり情報がなく、やっと代表幹事の中川氏がつてを頼って見つけた、地元の佐々木俊久氏に案内していただきました。採掘場跡は城山の山頂の南東の山裾からやや上ったあたりの林道に近い場所で、3か所ほど古い鑿跡がある露呈した岩を確認することができました。しかし、本格的な採掘場跡は確認できませんでした。

帰りしなに林道入口の佐々木氏の知り合いの福田一郎氏宅を訪れ、「板橋石」を腰壁に積んだ納屋や張り石の蔵を調査することができました。蔵の大きさは3間×2間の置屋根の蔵で、棟札によると明治28年に造られ、第二次世界大戦後に一段低い主屋と同じ現在の場所に曳家されたそうです。現在はセメント瓦の屋根にかわってしまいましたが、建設当初は石屋根で、現在も一部が庭の片隅に野積みされています。



古い鑿跡

#### 6. 再び石臼と出会う

福田一郎氏（75歳）宅の石蔵を見せていただいた後、ふと納屋の軒下を見ると、ここにも「板橋石」の「餅つき臼」がありました。現在も年末に石臼で餅を搗くそうです。後日メジャーで計測すると大きさは直径52cm、内径38cm、高さ66cmでした。福田一郎氏の話によると、子どもの頃にはすでに「餅つき臼」は家にあり、城山の南側に位置する旧下板橋地区（子どもの頃の世帯数約50軒）のほとんどの家にも「餅つき臼」があったそうです。

では、どこから手に入れたのでしょうか、福田一郎氏に尋ねると、自宅の南西方向に直線で250メートルほど行ったところに石屋があったそうです。船生さんから聞いた石屋があった場所と一致しました。残念なことに石屋は廃業し、現在は別の方が住んでいるとのこと、それ以上の情報は得られませんでした。

余談ですが、2023年1月18日に当会が実施し、柏村祐司氏が案内した『古賀志の高遠石工の足跡を辿る』現地調査会でのことですが、屋号『石屋』の北条氏宅の庭に「古賀志石」の石臼が放置されていて、「慶應」と読み取れる文字が刻まれていました。「餅つき臼」であるかどうかは確認できませんでしたが「古賀志石」でも石臼が造られていたようです。ちなみに、古賀志集落と下板橋集落間の直線距離は約8kmです。



福田一郎氏宅の蔵



福田一郎氏宅石蔵で使用されていた石屋根



福田一郎氏宅の石臼



古賀志石の石臼



竪坑跡①



竪坑跡①別角度



垣根掘りの跡が見られる②

## 7. 2回目の採石場現地調査 2022年6月26日

3台の車に分乗して板橋トンネルを抜け、旧下板橋地区の登山道入り口に向かいました。今回の採掘場跡の案内役の田邊博彬氏と高山豊明氏は、事前に十分な下見をしてくれていました。車を農道脇に止め、登山道を歩き昨年調査した地点近くへ到着。そこから右に分かれる別の伐採用の林道へ、しばらく歩くと右手の山の斜面を登り始めた。斜めに迂回するように歩くと隠れていた竪坑が現れ、覗くと水が溜まっていました。そこは機械掘りの竪坑跡で、昭和40年代に造られたようです。近くにはもう一つの採掘場跡がありました。(写真①②)

登山道に戻り少し進んだ後、左手の斜面を登り稜線を超え、鑿跡の残る低い塀のような壁面をまくように進みました。そこから今度は急斜面を下ると、天井付近が落盤で崩れた垣根掘りの跡がある採掘場跡がありました。奥は機械掘りのようです。細く残された石柱の上部には「山神社」の文字が読み取れました。(写真③)

個人的な感想ですが、「板橋石」がこれほどたくさん採掘されていたとは思いませんでした。



採掘場跡③

## 8. 結びに

2021年9月と2022年6月の2回の現地調査を行ない、断定はできませんが、報徳役所書蔵で確認できた江戸時代末期からのいくつかの手掘りの採掘場跡や、鉄骨の階段のある昭和時代の竪坑での機械掘りが確認できたことで、大谷石産業の中での「板橋石」の位置がはっきりいたしました。

また、「板橋石」の岩質の試料を採取できたことで、他の石の産地との比較が可能になり、加えて「板橋石」で造られた建造物や屋根の新たな特定につながり、どちらかという忘れ去られていた「板橋石」が見直されることを期待します。

その他としては、「板橋石」の「餅つき臼」の発見です。これまで生活用具として栃木県内の凝灰岩が使われたのは、竈・囲炉裏・火鉢・井戸杵・水盤などで、まれに風呂桶（大谷資料館に展示）にも利用されていたようですが、凝灰岩の「餅つき臼」があることは知りませんでした。

なぜ他の凝灰岩では「餅つき臼」が無かったのか。大谷石と比較すると「板橋石」は、硬くきめが細かくミソが無いという特徴があるからだろうか。疑問は解決されていませんが、今までは、建築資材としての用途を中心に採掘場跡や石材業者の情報収集や調査をしてきましたが、偶然にも「板橋石」の「餅つき臼」が二つ見つかったことで、民具や生活用具に凝灰岩がどのように使われていたのか、今後の県内凝灰岩産地調査の指針を得ました。



現地案内板に示したおよその採掘場跡位置（板橋里山整備委員会制作の現地案内板を転載）

## 参考文献

- 『民藝6月号 第630号』 日本民藝協会 2005年
- 『栃木県歴史の道調査報告書第一集』 栃木県教育委員会 2008年
- 『日光の石文化』 国土交通省関東地方整備局日光砂防事務所制作ホームページ  
[https://www.ktr.mlit.go.jp/nikko/nikko\\_index012.html](https://www.ktr.mlit.go.jp/nikko/nikko_index012.html)